

成長への礎を固める中期経営計画 2030年ビジョン Phase2 (2025-2027年)

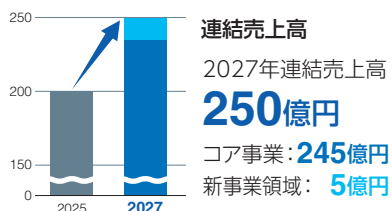
Phase1(2022-2024年)では、「創造と変革」を指針としてコア事業の強化に取り組み、最終年度の2024年は連結営業利益率目標を上回って達成、ROEも8.9%と目標10%以上をやや下回ったものの、グローバル拠点の再編成を伴う効率化の結果でした。

Phase2(2025-2027年)は「成長への礎づくり」となる3カ年で、2030年に目指す姿を実現するための戦略的投資、人材開発、コア技術と新技術領域の市場拡大を図っていきます。

「2030年ビジョンPhase2」1年目の業績は当初想定を上回って推移しました。

中期経営計画 Phase2 における定量目標と定性目標

■ 定量目標 (2026年2月13日更新)



連結営業利益率 **26~30%**

ROE **13~16%**

さらなる株主還元強化を図るため、Phase2における配当方針を「連結配当性向35%以上かつ連結株主資本配当率(DOE)4.0%以上」に変更

■ 定性目標

- 既存市場における収益性維持・強化
 - 顧客との関係性強化
 - 超微粗化系密着向上処理のシェア維持
 - 無粗化技術(化学密着)領域におけるソリューション確立
 - 環境配慮薬品への取り組み
- 既存技術の応用展開分野における事業構築
- 新規事業の創出
- グローバル安定供給体制の確立
- ESG経営の推進・強化

2030年ビジョン

界面の創出と接合で
世界一になる

Phase3

2028-2030年
さらなる成長へ
新規事業の創出

Phase2

2025-2027年
成長への礎づくり

- 新技術での地位確立
- 既存技術を応用した事業構築

Phase1

2022-2024年
コア事業の強化

- 重点領域の深耕
- 収益性確保し成長への投資

成長戦略 | 基本方針

営業キャッシュフロー
外部調達等

成長投資

- 研究開発に関する投資
毎年の連結売上高の約**10%**
- M&A
- グローバル供給体制の強化
- 技術サポート・マーケティング体制の強化

基盤強化

- 人的投資
- 設備投資：3カ年で約**80億円**
- ESG経営強化
2030年までに国内のScope1、Scope2の総排出量を**実質50%削減**(2017年度比)

株主還元

- 株主配当
- 1株当たり年間配当金の維持・成長を目指す
連結配当性向：**35%以上かつDOE40%以上**
- 自己株式取得は状況に応じて機動的に実施

人材開発 | 2030年目標

女性
管理職比率

30%以上

男性
育児休業取得率

85%以上

男女
賃金差異

90%以上

市場開拓で収益拡大ステージへ

コア事業の拡大

半導体・電子基板市場における
需要拡大

新技術領域の需要拡大

超微粗化、無粗化技術による
密着向上剤で高速、高密度化へ